

ホタルカズラ *Lithospermum zollingeri* DC. (図版 7)

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は細く、開出したあらい毛があり、高さ 15～25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形～広倒披針形、長さ 2～6cm、幅 0.6～2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は 4～5 月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15～18mm、花冠は 5 裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城(石川静雄 140)、渥美(小林 42454)、豊田東部(瀧崎吉伸 7231)、知多南部(鳥居ちる子 2549)、犬山(山田果与乃 214)、豊橋北部にもあるという(小林, 2001)。ただしこれらの区画の一部では、すでに絶滅しているかもしれない。安原(1990)によれば名古屋市市内でも愛知用水の岸にあったが、用水の改修により消滅したという。豊川宝飯(一宮町、加藤等次 s.n., 1957-4-29)で採集された標本もある。

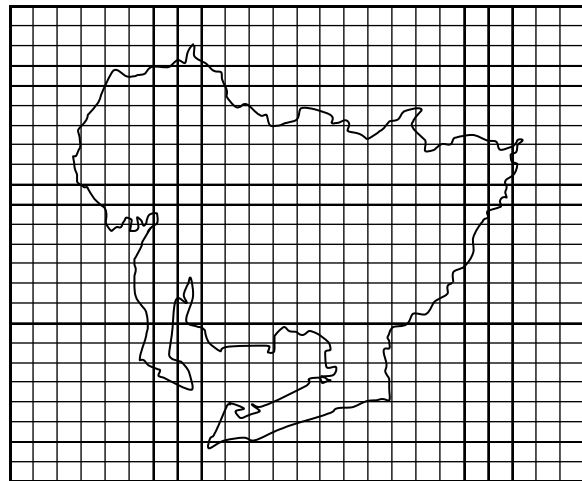
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつてはところどころに点在していたが、植生遷移の進行によって激減し、現在では容易に見ることができない植物になってしまった。もともと遷移途中のやや不安定な場所に生育していることが多く、どこでも個体数は少なく、再度同じ場所に行っても確認できないこともあったために、どの区画でも「絶滅」と断定しにくい。そのため今回は絶滅危惧 類と評価されたが、実際の状況は更に危機的かもしれない。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるポタ)に生育しているものについては、草刈りを続け、丈の低い草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。

【引用文献】

安原修次, 1990. なごや野の花 p.40. エフエー出版, 名古屋.
小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.116. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本 p.195、平草本 p.64。